

野菜花き 8月下旬巡回調査結果の概要

【東北信】 巡回日 8月19日、20日、21日

1 トマト

小諸市の巡回ほ場（露地栽培）は、収穫中であった。病害では、8月上旬調査に引き続きCMVの感染株がみられた。また、輪紋病の発生がみられたが、平年並の発生であった。虫害では、ハダニ類の寄生が多かった。また、アザミウマ類の寄生、オオタバコガの被害果もわずかにみられた。

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は、隣の施設に移り、着果中であった。オンシツコナジラミの寄生株率は隣の施設より低かったが、平年と比べるとやや高かった。病害の発生はみられなかった。

2 きゅうり

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は、収穫中であった。病害では、うどんこ病の発病株率が平年と比べ高かった。虫害では、アザミウマ類、ハダニ類の発生が多く、特にハダニ類の寄生率、寄生葉率が高かった。また、オンシツコナジラミの寄生もみられたが、わずかであった。

中野市の巡回ほ場（露地栽培）は、収穫中であった。病害では、褐斑病の発生がみられ、発病株率は平年と比べやや高かった。べと病の発生もみられたが、わずかであった。虫害では、アザミウマ類の寄生がみられたが、寄生株率は低かった。

3 いちご

南牧村の巡回ほ場は、着果期であった。アザミウマ類の寄生がみられたが、寄生花率は低かった。病害の発生はみられなかった。

4 キャベツ

小諸市の巡回ほ場は、結球期であった。病害では、株腐病の発生がみられたが、わずかであった。虫害では、アザミウマ類の寄生が多く、全調査株に被害がみられた（図1）。コナガ等チョウ目害虫の食害も全調査株にみられた。



図1 アザミウマ類によるキャベツの被害
(小諸市)

南牧村の巡回ほ場は、収穫期であった。病害では、黒腐病の発生がみられたが、発病株率は低かった。虫害では、チョウ目害虫の被害株がみられ、被害株率は平年と比べやや高かった。

軽井沢町の巡回ほ場は、結球期であった。ウワバ類等チョウ目害虫の被害株がみられ、被害株率は平年と比べやや高かった。病害の発生はみられなかった。

長野市の巡回ほ場は、収穫期であった。病害では、黒腐病の発生がみられ、発病株率は平年と比べ高かった。虫害では、ウワバ類等チョウ目害虫の被害株率が平年と比べやや高かった。

5 ブロッコリー

南牧村の巡回ほ場は、生育期（10～11葉期）であった。病害では、黒斑細菌病の発生がみられ、発病株率は平年と比べやや高かった。虫害では、チョウ目害虫の被害株がみられたが、わずかであった。

御代田町の巡回ほ場は、生育期（12葉期）であった。コナガ、ウワバ類等チョウ目害虫の被害株がみられ、被害株率は平年と比べやや高かった。病害の発生はみられなかった。

6 はくさい

上田市の巡回ほ場は、生育初期（5葉期）であった。病虫害の発生はみられなかった。

小諸市の巡回ほ場は、生育初期（4葉期）であった。チョウ目害虫の被害がわずかにみられた。病害の発生はみられなかった。

小海町の巡回ほ場は、収穫期であった。病害では、べと病の発生がみられ、発病株率は平年と比べやや高かった。また、ピシウム腐敗病の発生もみられ、発病株率は低かった。虫害では、チョウ目害虫の被害がわずかにみられた。

南牧村の巡回ほ場は、結球期であった。病害では、べと病の発生がみられたが、わずかであった。虫害では、チョウ目害虫の被害がわずかにみられた。

7 レタス

上田市の巡回ほ場は、結球期であった。すそ枯病、斑点細菌病の発生がみられたが、少発生であった。虫害の発生はみられなかった。

小諸市の巡回ほ場は、定植直後であった。病虫害の発生はみられなかった。

南牧村の巡回ほ場は、収穫期であった。病害では、べと病の発生がみられ、発病株率は平年と比べ高かった。また、すそ枯病の発生もみられたが、少発生であった。虫害の発生はみられなかった。

御代田町の巡回ほ場は、結球始期であった。斑点細菌病の発生がみられたが、発病株率は平年並であった。虫害の発生はみられなかった。



図2 レタスべと病（南牧村）

8 アスパラガス

小諸市の巡回ほ場（露地栽培）は、立茎繁茂期であった。病害では、茎枯病の発生がみられ、発病株率は同時期の平年値と比べ高かった。虫害では、アザミウマ類の寄生株率が100%と高かった。

小布施町の巡回ほ場（雨よけ栽培）は、立茎繁茂期であった。病害では、茎枯病の発生がみられ、発病株率は同時期の平年値と比べ高かった。虫害では、8月上旬の調査時に多発していたハダニ類は、防除により寄生株率は低かった。また、アザミウマ類の寄生もみられたが、寄生株率は低かった。

飯山市の巡回ほ場（露地栽培）は、立茎繁茂期であった。病害では、茎枯病の発生がみられ、発病株率は同時期の平年値と比べほぼ同等であったが、発病度はやや高かった。虫害では、アザミウマ類の寄生株率が平年と比べやや高かった。また、ハダニ類の寄生もみられたが、寄生株率は平年並であった。

9 ながいも

長野市のながいもは、生育期であった。アブラムシ類の寄生はみられなかった。

10 きく

佐久穂町の巡回ほ場は、収穫中であった。アザミウマ類による被害花がわずかにみられた。病害の発生はみられなかった。

【中南信】 巡回日 8月18日、19日、20日、21日、22日

1 トマト

南箕輪村の巡回ほ場（施設・抑制栽培）は、着果中であった。病虫害の発生はみられなかった。

伊那市および安曇野市の巡回ほ場（露地栽培）は、収穫が終了していた。

2 きゅうり

高森町の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であった。病虫害の発生はみられなかった。

松本市の巡回ほ場（施設・抑制栽培）は、収穫が始まっていた。葉および花にアザミウマ類（少発生）の寄生がみられたほか、葉にアブラムシ類、ワタヘリクロノメイガ（いずれも少発生）の寄生がみられた。病害の発生はみられなかった。

3 キャベツ

塩尻市の巡回ほ場は、定植前であった。

朝日村の巡回ほ場は、生育期であった（9～10葉）。葉にウワバ類（少発生）の寄生がみられた。病害の発生はみられなかった。

茅野市の巡回ほ場は、生育期であった（10～11葉）。葉にコナガおよびウワバ類（いずれも少発生）の寄生がみられた。病害の発生はみられなかった。

4 はくさい

木祖村の巡回ほ場は、収穫期であった。病虫害の発生はみられなかった。

朝日村の巡回ほ場は、生育期であった（9～10葉）。病虫害の発生はみられなかった。

5 レタス

塩尻市の巡回ほ場は、生育期であった（7～8葉）。病虫害の発生はみられなかった。

朝日村の巡回ほ場は、定植直後であった（前回から場所移動）。病虫害の発生はみられなかった。

6 アスパラガス

豊丘村（雨除け栽培）の巡回ほ場は、茎葉繁茂期であった。払落しによりアザミウマ類、アブラムシ類およびハダニ類（少発生、少発生、多発生）の寄生がみられた。病害では、茎枯病（少発生）の発生がみられた。

飯島町（雨除け栽培）の巡回ほ場は、立茎繁茂期であった。払落しによりアザミウマ類（少発生）の寄生がみられた。病害では、茎枯病（少発生）の発生がみられた。

池田町（露地栽培）の巡回ほ場は、立茎繁茂期であった。払落しによりアザミウマ類およびアブラムシ類（中発生、少発生）の寄生がみられた。病害では、茎枯病（中発生）の発生がみられた。

7 ネギ

南箕輪村の巡回ほ場は、本葉 8.0 葉であった。虫害では、アザミウマ類（多発生）およびネギハモグリバエ（中発生）の寄生がみられたほか、ネギコガ（少発生）による食害もみられた。病害では、黒斑病およびさび病（中発生、少発生）の発生がみられた（図 3）。

山形村の巡回ほ場は、本葉 8.0 葉であった。アザミウマ類（多発生）、ネギハモグリバエ（中発生）およびネギコガ（少発生）の寄生がみられた。病害では、黒斑病（中発生）の発生がみられた。

8 ながいも

山形村の巡回ほ場は、生育期であった。病虫害の発生はみられなかった。

9 きく

富士見町の巡回ほ場は、収穫中であった（前回から場所移動）。病虫害の発生はみられなかった。



図 3 ネギ黒斑病（南箕輪村）